

[ジベレリン塗布剤]

農林水産省登録 第14434号

性状：淡黄色ペースト

毒性：普通物

危険物：－

有効年限：4年

包装：(50g × 1本) × 10 × 10

ジベレリン協和ペースト

有効成分：ジベレリン……………2.7%



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

[適用と使用方法]

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
日本なし	熟期促進 果実肥大促進	20～30 mg / 1果	満開30～40日後	1回	果梗部塗布	2回以内 (果梗部塗布は1回以内、 新梢基部塗布は1回以内)
	新梢伸長促進	100 mg / 1枝	満開予定日10日前 ～満開40日後		新梢基部塗布	
ぶんたん	果実肥大促進	5～10 mg / 1果	満開50～90日後	1回	果梗部及び 結果枝に塗布	1回
パイヤ	果実肥大促進	25 mg / 1花	開花期	1花当り 1回	花梗部塗布	1花当り1回
ひのき (採種樹) ひば (採種樹)	花芽分化促進	100 mg / 1枝	6月～8月頃 の花芽分化期	1回	枝を剥皮し注入	1回
日本なし (苗木)	新梢伸長促進	100 mg / 1枝	萌芽期～ 新梢伸長期	3回以内	頂芽基部塗布 または 新梢基部塗布	3回以内
もも (苗木)				2回以内		2回以内
すもも (苗木)				1回	1回	
温州みかん (苗木)			発芽期～展葉期	1回	頂芽基部塗布	1回

⚠ 使用上の注意事項

●日本なし

〈熟期促進、果実肥大促進〉

- 果梗部に余分の薬剤を塗布すると、これが高温などによって下部にたれ果面を汚したり葉害の原因となるので、所定量以上に多く付けすぎないように注意する。
- 塗布する際、薬剤が果面に付着すると葉害の原因となるので、果面に付着しないように注意して塗布する。
- 二十世紀においてゆず肌の発生が多い樹には使用しない。
- 処理によって熟期が早まるので促進された熟期に応じた収穫の適期に収穫するようにする。とくに促進された期間よりも早く収穫することのないように注意する。

〈新梢伸長促進〉

全花除去した新梢基部に塗布する。

●ぶんたん

- 果梗部に余分の薬剤を塗布すると、これが高温などによって下部にたれ果面を汚したり葉害の原因となるので、所定量以上に多く付けすぎないように注意する。

- 塗布する際、薬剤が果面に付着すると葉害の原因となるので、果面に付着しないように注意し、結果枝を含めた果梗部周辺に対して塗布する。
- 日本なし（苗木）、もも（苗木）、温州みかん（苗木）、すもも（苗木）
 - 塗布する際、薬剤が葉や芽に付着すると葉害（やけ症状）の原因となるので、葉や芽に付着しないように注意して塗布する。
 - 品種によって効果に差がある場合があるので、初めての品種に本剤を使用する場合は、病虫害防除所など、関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ひのき及びびばの採種樹
 - 対象の枝の繊維に沿って辺材に達するまで切り込みを入れ、樹皮を持ち上げて形成層と木質部の間に所定量の薬剤を注入した後、樹皮でふたをして薬剤が流出しないようビニールテープ等で固定する。
 - 使用に当っては林業関係技術者の指導を受ける。
- 栽培管理、肥培管理などが不十分な園や異常天候時（異常高温、異常低温など）の使用は十分な効果が得られないことがあるので、そのような場合には使用をさける。
- 本剤は植物ホルモン剤であり、微量で植物に影響を与えるので適用作物、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病虫害防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓をして保管する。
- 使い残しの薬剤は、アタッチメントをはずして、直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓をして保管する。